



# 日本発生生物学会 秋季シンポジウム2016 プログラム集

会期：2016年（平成28年）10月19日（水）～21日（金）

会場：三島市民文化会館（静岡県三島市）小ホール



**小ホール内での飲食は禁止**されておりますので、持ち込みは行わないようご協力をお願いいたします。  
(19日、20日に開催するプレゼンテーションセミナーの時間帯のみ飲食可能です)

URL : <http://jsdbautumn2016.jimdo.com/>



# スケジュール

## 10月19日(水)

	9:30-11:30	11:40-12:40	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-17:10	17:20-18:20	18:30-19:10	19:20-20:00
小ホール(1F)	OP01(8) シグナル、 幹細胞	遺伝研企画 「発生と機能の イメージング」	プレゼンテーシ ョンセミナー1		OP02(8) 極性、細胞運命	遺伝研企画 「がんの 初期発生」 (in English)	Plenary Lecture (in English)	臨時総会
小ホールホワイエ				ポスター発表				

## 10月20日(木)

	9:15-11:15	11:25-12:25	12:35-13:35	13:45-15:45	15:55-16:55	17:00-21:00
小ホール(1F)	遺伝研企画 「発生と定量」 (OP(5))	OP03(4) 神経	プレゼンテーショ ンセミナー2	OP04(8) 形態形成	遺伝研企画 「植物の発生」	
小ホールホワイエ	ポスター掲示					
	沼津港深海水族館+浜焼きしんちゃん					交流会

## 10月21日(金)

	9:15-10:45	11:00-13:00	13:00-14:00
小ホール(1F)	OP05(6) 受精、生殖	OP06(8) 進化、初期発生	
小ホールホワイエ	ポスター掲示		ポスター撤去

# プログラム

---

## Plenary Lecture ( 10/20 18:30 ~ 19:10 ) ( in English )

**Didier Stainier**博士 ( Max Planck Institute )

Title : **Imaging cardiomyocyte cell behavior during development.**

My laboratory investigates questions related to organogenesis including cell differentiation, tissue morphogenesis, organ homeostasis and function, as well as organ regeneration. We study these questions in zebrafish as well as in mouse and are currently looking at several mesodermal (heart, vasculature) and endodermal (pancreas, lung) organs. We utilize both forward and reverse genetic approaches, and aim to dissect cellular processes using high-resolution live imaging. One goal of our studies is to gain understanding of vertebrate organ development at the single-cell level, and beyond. This talk will focus on cardiac development and function, specifically on the process of cardiac trabeculation.

## 遺伝研若手研究者による遺伝研の研究の特色を生かした遺伝研企画

### 1. 発生と定量 (世話人: 木村暁、高尾大輔) ( 10/20 9:15 ~ 11:15 )

講演者: 高尾大輔 ( 遺伝研 )

森下喜弘 ( 理化学研究所 生命システム研究センター )

山本一徳 ( 総合研究大学院大学 生命科学研究科 遺伝学専攻/国立遺伝学研究所 細胞建築研究室 )

東裕介 ( 理化学研究所 生命システム研究センター )

原佑介 ( Mechanobiology Institute, Singapore )

瓜生耕一郎 ( 金沢大学理工研究域自然システム学系 )

平島剛志 ( 京都大学再生医科学研究所 )

定性的に説明されることの多かった発生生物学分野で、近年は物理的な性質を定量的に理解しようとする動きが活発である。複雑なシグナル伝達に関わる分子ダイナミクスとはどのようなものか？組織の中でどのように細胞が力を発生し形態形成が進むのか？本企画では、分子から細胞、さらには組織・個体レベルにおいて発生に関わる様々な物理的性質を可視化・定量化し、発生の根本的な理解を目指すアプローチについて議論する。

2. 植物の発生（世話人：小田祥久）（10/20 15:55～16:55）

講演者：小田祥久（遺伝研）

長島慶宜（遺伝研）

津田勝利（遺伝研）

稲垣宗一（遺伝研）

植物の発生は細胞の分裂、分化、成長の繰り返しにより、細胞の相対的な位置関係を変えることなく進行する。この発生様式は細胞運動を欠いている点で動物の発生とは大きく異なる。シロイヌナズナやイネといったモデル植物の研究により、植物特有の発生を支える分子的な基盤の理解はこの10年で飛躍的に進んできた。本企画では植物の発生に関してエピゲノム、細胞レベル、組織レベルの現象に着目し、最新の知見を紹介する。

3. Early Development of Cancer（がんの初期発生）（世話人：田守洋一郎）（10/19 17:20～18:20）（in English）

Speakers：Y. Tamori (NIG) / 田守洋一郎（遺伝研）

T. Ishitani (Kyushu Univ.) / 石谷太（九州大学）

M. Enomoto (Kyoto Univ.) / 榎本将人（京都大学）

S. Kon (Hokkaido Univ.) / 昆俊亮（北海道大学）

Malignant tumors are caused by uncontrolled proliferation of transformed mutant cells that have lost the ability to maintain tissue integrity. The process of tumor development in which tissue organization is progressively disrupted appears to be contrast to embryogenesis or organogenesis. As cancer is alternatively dubbed as “neoplasm,” however, tumors arise as newly developing cells in a tissue. In fact, several issues in development biology such as growth and proliferation, angiogenesis and epithelial-mesenchymal transition are also can be seen in the process of tumor progression. In this session, we would like to discuss the early development of neoplasms which has been poorly understood.

がんは、正常な組織に現れた変異細胞が、秩序立った組織構造を壊し、制御の利かない増殖を起こすことにより生じる。がんの発生とはつまり、協調的な細胞社会を破壊していくプロセスであり、胚発生や器官形成とはいわば真逆のものであるように見える。しかしながら、がんは悪性新生物とも言われるように、組織内に新しく発生してくる細胞群であり、これが発達する過程で、増殖成長、血管新生、上皮間葉転換といった、発生生物学のテーマが密接に関係してくる。今回のセッションでは、未だによく分かっていないこの新生物の初期発生に関して、最近の知見をもとに議論を行いたい。

#### 4. 発生と機能のイメージング（世話人：水野秀信）（10/19 11:40～12:40）

講演者：菅生紀之（大阪大学）

田中洋光（京都大学）

藤本聡志（理研 CDB）

水野秀信（遺伝研）

継時的イメージングは、分子や細胞の動態および機能を解明するにあたり、強力な手法として用いられている。本企画では、分子・細胞内領域・細胞群・個体の各レベルでユニークなイメージング法を用いる若手研究者が、研究を紹介する。それぞれの手法や研究の着眼点の、共通点・相違点・融合可能性などを議論することを通し、新しい研究領域の開拓に迫りたい。

### プレゼンテーションセミナー（10/19、20）

広海健博士（遺伝研リサーチ・アドミニストレーター室長）

「遺伝研メソッド：科学プレゼンテーションの発生遺伝学」

司会：平田たつみ（遺伝研）

「遺伝研メソッド」は国立遺伝学研究所（遺伝研）で開発された科学プレゼンテーションの方法論です。遺伝研の研究者が、長年セミナーをしたり聞いたりしてきた経験をもとに、研究者として必要な発表技術をまとめたものです。もともと大学院の科学英語教育の一環として開発されたカリキュラムですが、単に「英語表現」の技術ではなく、「伝えるべきこと」を効果的に伝える方法論であるとともに「科学的思考力」を強化する効果もあるので、留学生や教員にも好評です。このランチョンセミナーでは、開発者グループ（蔵元？）が司会と講演を担当し、カリキュラムの一部をテイastingしていただけます。19日と20日は異なるフレーバーの話です。是非両方ともお試してください。

注：昼食を摂りながら聞いていただけますが、無料のランチは提供しません。

お弁当の受付は、事前申込みとなります（1個 500円）。当日のご購入はできませんことをご了承ください。

## 口頭発表（10/19、20、21）

1. 発表時間は15分（発表12分、質疑応答3分）です。

ベル1回（10分）	ベル2回（12分）	ベル3回（15分）
講演時間終了 2分前	講演時間終了、質疑応答開始	質疑応答終了（講演者の持ち時間終了）

2. 発表は、各自のパソコンをご利用ください。一部のノートパソコンでは付属のコネクターが必要な場合がありますので、お忘れなくお持ちください。
3. 念のため、発表データをメモリスティックなどでお持ちいただくことを推奨します。
4. 接続端子は、HDMIとD-sub15ピンを用意しています。HDMIの利用をお勧めいたします。D-sub15ピンをご利用の場合、スクリーン（16：9）に対して小さく映写される可能性があることをご了承ください。
5. バッテリー切れに備え、必ず電源アダプターをお持ちください。
6. 発表中にスクリーンセーバーや省電力モードにならないよう、設定してください。
7. 照明を暗くしたい場合は、演台横の照明スタッフ（会館スタッフ）にお申し付けください。

## PC受付について（次ページ参照）

発表20分前に次演者席にお越しください。

**次演者席にいられましたらご自身の発表の二人前の演者の質疑応答時に舞台右側の階段（座長前）より「PC受付（事前映像チェック場所）」までパソコンを持ってきてください。**（休憩時間の場合は、演台側の階段をご使用ください）

➤（例）発表者がOP01-03の場合、OP01-01の質疑応答時にPCを持っていく。

事前映像チェックはパソコンをお持ち頂いた際に可能です。入念な動作確認が必要な方は、**セッション前の休憩時間にパソコンをお持ちいただき、確認していただくこと**をお勧めします。

9時15分から発表する演者は、小ホール入り口受付までお越しください。

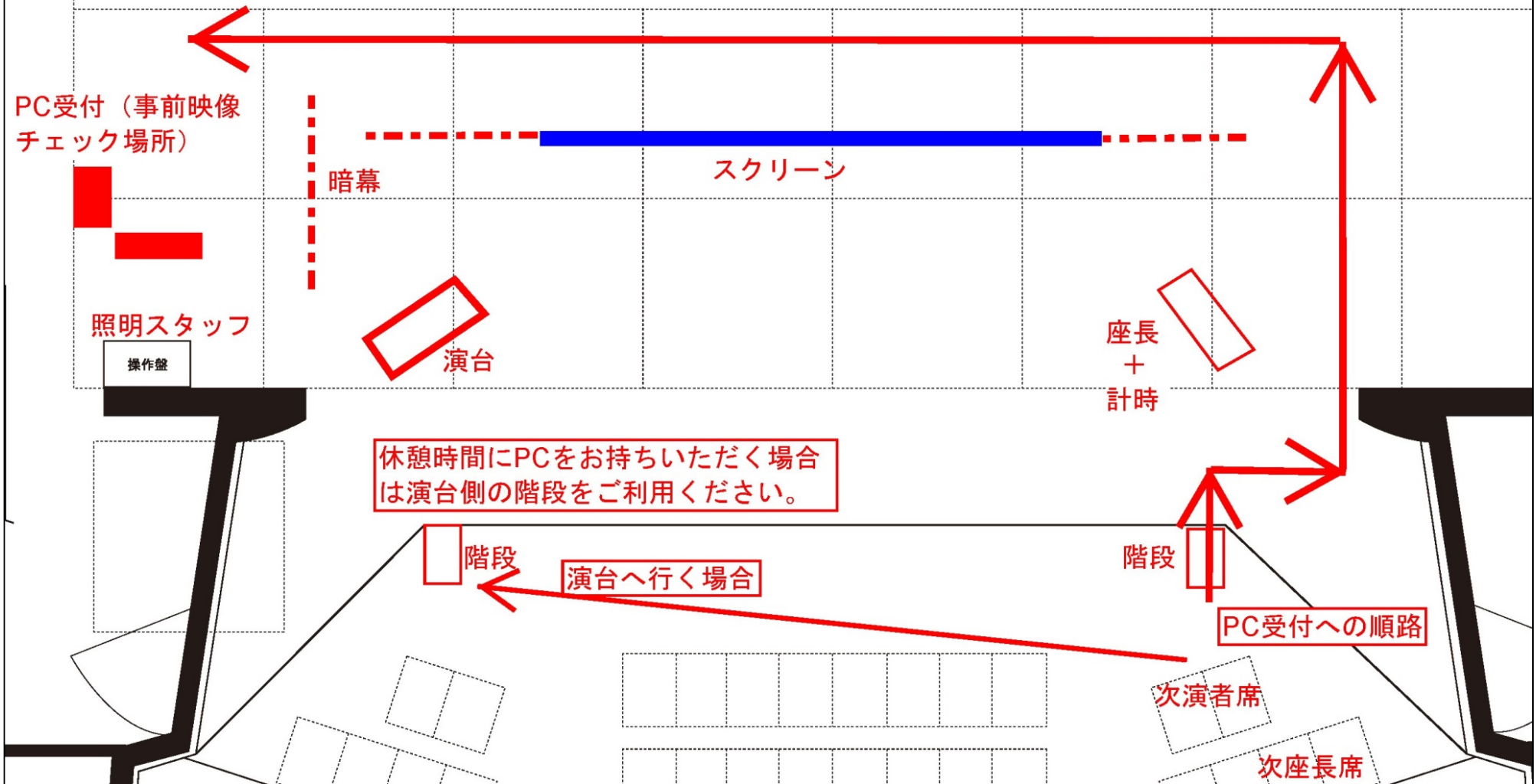
動画などの動作チェックを行う場合は、パソコン接続担当者にお申し付けください。

<注意事項 口頭発表をされます方は必ずお読みください！>

※次演者の方は、発表20分前には、次演者席にお越してください。前々演者の質疑応答中に座長前の階段よりスクリーン裏を通って、PC受付（事前映像チェック場所）までPCを持ってきて下さい。

※事前映像チェックは、PCをお持ちいただいた際に可能です。入念な動作確認が必要な場合は、セッション前の休憩時間にPCをお持ちいただき、確認されることをお勧めいたします。

※発表終了後、ご自身でPCを持ち帰ってください。



10月19日（水） OP01 シグナル、幹細胞 / 座長：高田慎治（基生研）・川上厚志（東工大）

No	時間	氏名	所属	発表タイトル
OP01-1	9:30-9:45	林 茂生	国立研究開発法人 理化学研究所 多細胞システム形成研究センター	Escargot controls the sequential specification of two tracheal tip cells by suppressing FGF signaling in Drosophila
OP01-2	9:45-10:00	高橋 知佳	京都大学大学院 生命科学研究科	ERK3 は上皮組織構築を制御する (authorship:高橋知佳、宮竹功一、日下部杜央、西田栄介)
OP01-3	10:00-10:15	細田 和孝	兵庫県立大学 理学部・大学院生命理学研究科	プラナリア再生過程において適切な器官配置を決める MAP3K の分子機構
OP01-4	10:15-10:30	安藤 和則	東京工業大学 生命理工学研究科 生命情報専攻	リザーブされた骨芽幹細胞によって骨組織の新生と再生は起こる
OP01-5	10:30-10:45	城戸 拓巳	関西学院大学 理工学研究科 生命科学科	iPS 細胞由来の毛髪モデル細胞の確立と解析の簡便化
OP01-6	10:45-11:00	安島 理恵子	国立遺伝学研究所 発生工学研究室	Wnt5a 濃度勾配によるマウス胚中胚葉細胞の運動制御
OP01-7 (P-10)	11:00-11:15	飯田 英明	京都産業大学 工学研究科 生物工学専攻	神経性網膜に内在する水晶体分化能を抑制する Notch シグナル：その破綻が水晶体への「分化転換」をもたらす
OP01-8 (P-11)	11:15-11:30	下條 博美	京都大学 物質-細胞統合システム拠点	形態形成過程における Delta-Notch シグナルを介した細胞間相互作用ダイナミクスの意義



10月19日（水） 遺伝研企画「発生と機能のイメージング」 / （世話人：水野秀信）

No	時間	氏名	所属	発表タイトル
発生と機能	11:40-11:55	菅生 紀之	大阪大学	1分子蛍光イメージングによる転写因子 CREB の神経活動依存的動態の解析
発生と機能	11:55-12:10	田中 洋光	京都大学	シナプス形成を誘導する接着分子と全反射顕微鏡の特性を利用したシナプス機能素子の動態イメージング
発生と機能	12:10-12:25	藤本 聡志	理研 CDB	発達期の嗅球における自発神経活動パターンの変化と回路形成
発生と機能	12:25-12:40	水野 秀信	遺伝研	ミクロとマクロのイメージングの統合による新分野の開拓

10月19日（水） OP02 極性、細胞運命 / 座長：澤育（遺伝研）・倉永英里奈（東北大）

No	時間	氏名	所属	発表タイトル
OP02-1	15:10-15:25	吉浦 茂樹	理研 CDB	Wnt proteins serves as directional cues for the Par-complex polarity and the nervous tissue growth
OP02-2 (P-12)	15:25-15:40	浅井 理恵子	University of California, San Francisco, CVRI	Oriented cell division drives the initial extension during primitive streak formation
OP02-3	15:40-15:55	中嶋 悠一郎	東北大 学際科学フロンティア研究所	細胞分裂方向の異常による上皮可塑性と腫瘍形成
OP02-4	15:55-16:10	浄住 大慈	大阪大学免疫学フロンティア研究センター	Extracellular matrix ECM3 and QBRICK regulate primary mesenchymal cell migration in the sea urchin embryo
OP02-5 (P-13)	16:10-16:25	池田 達郎	京都大学大学院理学研究科動物発生学研究室 D3	ホヤ胚の予定脳細胞においてリプレッサーによる時間的な調節が脊索のプログラムを抑制する
OP02-6	16:25-16:40	小林 健司	京都大学大学院理学研究科生物科学専攻動物学教室	「リンケージ・ロジック」理論の実験的検証：ホヤ胚の遺伝子制御ネットワークへの適用
OP02-7 (P-14)	16:40-16:55	佐波 理恵	大阪大学大学院医学系研究科心臓再生医療学	マウス心内膜前駆細胞における Sox17 の発現と心臓形成における役割
OP02-8 (P-15)	16:55-17:10	宇佐美 文子	基礎生物学研究所 初期発生研究部門	マウス卵管における平面内細胞極性の解析

10月19日（水） 遺伝研企画「Early Development of Cancer（がんの初期発生）」（in English）

/（世話人：田守洋一郎）

No	時間	氏名	所属	発表タイトル
Cancer	17:20-17:35	田守 洋一郎 / Y. Tamori	遺伝研 / (NIG)	Epithelial tumors originate in tumor hotspots, a tissue-intrinsic microenvironment
Cancer	17:35-17:50	石谷 太 / T. Ishitani	九州大学 / ( Kyushu Univ. )	Apoptotic elimination of cells lacking harmony of Wnt/ $\beta$ -catenin signaling
Cancer	17:50-18:05	榎本 将人 / M. Enomoto	京都大学 / ( Kyoto Univ. )	Src drives cell-to-cell propagation of JNK signaling to control tumorigenesis and regeneration
Cancer	18:05-18:20	昆 俊亮 / S. Kon	北海道大学 / ( Hokkaido Univ. )	Role of cell competition in multi-sequential carcinogenesis

**10月19日（水）18:30～19:10**

**Plenary Lecture ( in English )**

**Didier Stainier**博士 ( Max Planck Institute )

**Title : Imaging cardiomyocyte cell behavior during development.**

My laboratory investigates questions related to organogenesis including cell differentiation, tissue morphogenesis, organ homeostasis and function, as well as organ regeneration. We study these questions in zebrafish as well as in mouse and are currently looking at several mesodermal (heart, vasculature) and endodermal (pancreas, lung) organs. We utilize both forward and reverse genetic approaches, and aim to dissect cellular processes using high-resolution live imaging. One goal of our studies is to gain understanding of vertebrate organ development at the single-cell level, and beyond. This talk will focus on cardiac development and function, specifically on the process of cardiac trabeculation.

**10月19日（水）19:20～20:00**

**日本発生生物学会 臨時総会**

第49回大会（熊本）で予定しておりました総会を臨時総会として開催いたします。  
学会員皆様のご参加をお願いいたします。

10月20日（木） 「発生と定量」 世話人：木村暁（遺伝研）・高尾大輔（遺伝研）

No	時間	氏名	所属	発表タイトル
発生と定量	9:15-9:30	高尾 大輔	遺伝研	イントロダクション
発生と定量	9:30-10:00	森下 喜弘	理化学研究所 生命システム研究センター	曲率を持つ上皮組織の形態形成過程における3次元変形動態の定量解析と実験データを反映した力学モデリングの試み
発生と定量-1 (P-16)	10:00-10:15	山本 一徳	総合研究大学院大学 生命科学研究所 遺伝学専攻/国立遺伝学研究所 細胞建築研究室	細胞間の力学的な相互作用が細胞配置パターン形成に關与する
発生と定量-2 (P-17)	10:15-10:30	東 裕介	理化学研究所 生命システム研究センター	線虫 <i>C. elegans</i> の胚発生における細胞動態の定量解析
発生と定量-3 (P-18)	10:30-10:45	原 佑介	Mechanobiology Institute, Singapore	細胞形状ゆらぎに伴う細胞間張力変化と細胞接着分子動態の相互關係 ～ゆらぎから紡ぎだされる上皮の形態形成～
発生と定量-4 (P-19)	10:45-11:00	瓜生 耕一郎	金沢大学理工研究域自然システム学系	細胞移動が分節時計の同期に与える影響をイメージングデータと数理モデルで明らかにする
発生と定量-5 (P-20)	11:00-11:15	平島 剛志	京都大学再生医科学研究所	増殖する上皮管の径サイズ維持に働く多細胞動態システム

10月20日(木) OP03 神経 / 座長：鈴木えみ子(遺伝研)・川崎能彦(遺伝研)

No	時間	氏名	所属	発表タイトル
OP03-1	11:25-11:40	井村 英輔	筑波大学大学院 生命環境科学研究科	ショウジョウバエのステロイドホルモン生合成を制御する神経群の協調的機能
OP03-2 (P-21)	11:40-11:55	原田 綾乃	JT 生命誌研究館	アフリカツメガエル胚における G タンパク共益型受容体 P2Y4 の頭部形成における役割
OP03-3	11:55-12:10	清水 貴史	名古屋大学生物機能開発利用研究センター	ゼブラフィッシュ恐怖条件付け学習における小脳の役割
OP03-4	12:10-12:25	仲嶋 一範	慶應義塾大学医学部解剖学教室	大脳皮質ニューロンの分化制御機構

10月20日(木) OP04 形態形成 / 座長: 上野直人(基生研)・松尾勲(母子医療センター研究所)

No	時間	氏名	所属	発表タイトル
OP04-1 (P-22)	13:45-14:00	岸本 圭史	理研 CDB 呼吸器形成研究チーム	気管の形態形成における間充織の重要性
OP04-2	14:00-14:15	加藤 輝	自然科学研究機構・新分野創成センター	Microtubule-dependent balanced cell contraction accelerate epithelial tube fusion
OP04-3	14:15-14:30	上地 浩之	理化学研究所 多細胞システム形成研究センター	集団細胞移動における細胞接着再構成の仕組みの解析
OP04-4 (P-23)	14:30-14:45	根岸 剛文	基礎生物学研究所	アフリカツメガエル先行中胚葉(leading edge mesoderm)の集団的移動における力場の測定
OP04-5 (P-24)	14:45-15:00	佐藤 有紀	九州大学大学院医学研究院	脈動による空間伸縮が形態形成に果たす役割
OP04-6 (P-25)	15:00-15:15	尾之内 佐和	北海道大学獣医学研究科解剖学教室	マウス十二指腸空腸曲の屈曲機序について
OP04-7	15:15-15:30	岡田 和訓	NIBB, OIIB	脊椎動物の咽頭嚢は異なる分節様式の融合により形成される
OP04-8 (P-26)	15:30-15:45	矢部 泰二郎	基礎生物学研究所	ゼブラフィッシュ体節形成における分節境界形成に伴う分節時計の停止機構

10月20日（木） 遺伝研企画「植物の発生」 / （世話人：小田祥久）

No	時間	氏名	所属	発表タイトル
植物	15:55-16:00	小田 祥久	遺伝研	イントロダクション
植物	16:00-16:15	長島 慶宜	遺伝研	自発的に細胞の形を作り出す Rho シグナルの解析
植物	16:15-16:35	津田 勝利	遺伝研	単子葉植物トウモロコシの茎における散在型維管束と節/節間のパターンニング機構
植物	16:35-16:55	稲垣 宗一	遺伝研	エピゲノム分化と植物発生に重要な"gene body"クロマチン修飾動態の解析



10月21日（金） OP05 受精・生殖 / 座長：相賀裕美子（遺伝研）・藤森俊彦（基生研）

No	時間	氏名	所属	発表タイトル
OP05-1 (P-27)	9:15-9:30	高山 順	理化学研究所 生命システム 研究センター	線虫 <i>C. elegans</i> において精子 TRP-3 チャンネルが受精卵のカルシウム波を引き起こす
OP05-2 (P-28)	9:30-9:45	田中 翼	熊本大学 発生医学研究所	卵黄タンパク質受容体 <i>Yolkless</i> のエンドサイトーシス制御は細胞極性と生殖質の形成に必要である
OP05-3	9:45-10:00	吉成 祐人	筑波大学大学院生命環境科学 研究科生物科学専攻	雌性生殖幹細胞の増殖を制御する神経内分泌機構の同定
OP05-4 (P-29)	10:00-10:15	北館 祐	基礎生物学研究所生殖細胞研 究部門	精子幹細胞の数を決める仕組み
OP05-5	10:15-10:30	加藤 譲	国立遺伝学研究所発生工学研 究室	RNA 結合タンパク質が介する生殖細胞内因的な原始卵胞活性化の調節機構
OP05-6 (P-30)	10:30-10:45	関 由行	関西学院大学	生殖細胞形成機構の動物種を超えた共通原理と種特異性

10月21日(金) OP06 進化・初期発生 / 座長: 日比正彦(名古屋大)・天野孝紀(遺伝研)

No	時間	氏名	所属	発表タイトル
OP06-1 (P-31)	11:00-11:15	呉谷 文	Dept. of Biol. Scis., Grad. Sch. of Sci, Univ. of Tokyo	bHLH-WRPW 型転写因子 Hes 遺伝子ファミリーの hes5 クラスターに注目した起源と進化
OP06-2	11:15-11:30	田中 幹子	東京工業大学生命理工学院	サメ胚から探る鰭から四肢への形態進化の軌跡
OP06-3 (P-32)	11:30-11:45	北條 宏徳	東京大学大学院工学系研究科 バイオエンジニアリング専攻	ChIP-seq 解析を駆使した骨形成における転写因子 Sp7/Osterix の作動様式の同定と骨を有する脊椎動物進化との関連性
OP06-4 (P-33)	11:45-12:00	阿部 高也	RIKEN CLST 生体ゲノム工学研究チーム	マウス着床後初期胚における細胞系譜解析
OP06-5 (P-34)	12:00-12:15	小田(石井)いずみ	京都大学大学院 理学研究科 生物科学専攻	ホヤ胚における母性因子による胚性発生プログラムの開始機構
OP06-6	12:15-12:30	日野 太夢	名古屋大学理学研究科生命理学専攻	ゼブラフィッシュ Wnt8a は本当に背側決定因子か?
OP06-7	12:30-12:45	近藤 寿人	京都産業大学 総合生命科学部	ヘンゼン結節周辺組織の発生能の再検討

## ポスター発表 (10/19、20) (ボードサイズ W900×H1200)

ポスター貼付	10月19日(水) 9時30分～
ポスター発表	10月19日(水) 14:00～15:00
ポスター撤去	10月21日(金) 13時～14時

ポスター撤去時間内に撤去されない場合は、破棄いたします。

**ポスタータイトルは、英語もしくは日英併記で掲載してください。**

No	氏名	所属	発表タイトル
P-01	峰岸 かつら	理化学研究所 多細胞システム形成研究センター	A Wnt5 asymmetric activity and intercellular signaling via PCP proteins polarize node cells for left-right symmetry breaking
P-02	二村 隆征	名古屋大学大学院理学研究科 生命理学専攻	Reelin シグナルによるゼブラフィッシュ小脳および視蓋の層形成機構の解析
P-03	伊藤 翼	名古屋大学大学院理学研究科 生命理学専攻	ゼブラフィッシュのプルキンエ細胞および下オリブ核ニューロンの発生を制御する Ptf1a および Gsx2 の機能解析
P-04	石田 研太郎	青山学院大学 理工学部 物理・数理学科	in vitro での皮膚と付属器官からなる複合器官の形成に関する研究
P-05	土屋 凱寛	総合研究大学院大学 生命科学研究所 基礎生物学専攻、基礎生物学研究所 分子発生学研究部門	アダプタータンパク質 Ripply3 を介した咽頭上皮シートの形態変化
P-06	梅園 良彦	兵庫県立大学 大学院生命理学研究科	プラナリアにおける脳を介さない摂食行動の解析
P-07	竹内 未紀	名古屋大学生物機能開発利用研究センター	ゼブラフィッシュ小脳における顆粒細胞・プルキンエ細胞の遺伝子プロファイリング解析
P-08	李尚雨	RIKEN QBiC	Neutral cell competition and tissue growth efficiency

P-09	清水 勇氣	早稲田大学大学院先進理工学 研究科生命医科学専攻	ゼブラフィッシュ視蓋損傷モデルにおける放射状グリアの増殖・分化および Wnt シグナルの解析
P-10 (OP01-7)	飯田 英明	京都産業大学 工学研究科 生物工学専攻	神経性網膜に内在する水晶体分化能を抑制する Notch シグナル: その破綻が水 晶体への「分化転換」をもたらす
P-11 (OP01-8)	下條 博美	京都大学 物質-細胞統合シ ステム拠点	形態形成過程における Delta-Notch シグナルを介した細胞間相互作用ダイナミ クスの意義
P-12 (OP02-2)	浅井 理恵子	University of California, San Francisco, CVRI	Oriented cell division drives the initial extension during primitive streak formation
P-13 (OP02-5)	池田 達郎	京都大学大学院理学研究科 動物発生学研究室 D3	ホヤ胚の予定脳細胞においてリプレッサーによる時間的な調節が脊索のプログ ラムを抑制する
P-14 (OP02-7)	佐波 理恵	大阪大学大学院医学系研究科 心臓再生医療学	マウス心内膜前駆細胞における Sox17 の発現と心臓形成における役割
P-15 (OP02-8)	宇佐美 文子	基礎生物学研究所 初期発生 研究部門	マウス卵管における平面内細胞極性の解析
P-16 (定量-1)	山本 一徳	総合研究大学院大学 生命科学 研究科 遺伝学専攻/国立遺伝 学研究所 細胞建築研究室	細胞間の力学的な相互作用が細胞配置パターン形成に關与する
P-17 (定量-2)	東 裕介	理化学研究所 生命システム 研究センター	線虫 <i>C. elegans</i> の胚発生における細胞動態の定量解析
P-19 (定量-3)	原 佑介	Mechanobiology Institute, Singapore	細胞形状ゆらぎに伴う細胞間張力変化と細胞接着分子動態の相互關係 ~ゆら ぎから紡ぎだされる上皮の形態形成~
P-18 (定量-4)	瓜生 耕一郎	金沢大学理工研究域自然シス テム学系	細胞移動が分節時計の同期に与える影響をイメージングデータと数理モデルで 明らかにする
P-20 (定量-5)	平島 剛志	京都大学再生医科学研究所	増殖する上皮管の径サイズ維持に働く多細胞動態システム
P-21 (OP03-2)	原田 綾乃	JT 生命誌研究館	アフリカツメガエル胚における G タンパク共益型受容体 P2Y4 の頭部形成にお ける役割

P-22 (OP04-1)	岸本 圭史	理研 CDB 呼吸器形成研究チーム	気管の形態形成における間充織の重要性
P-23 (OP04-4)	根岸 剛文	基礎生物学研究所	アフリカツメガエル先行中胚葉(leading edge mesoderm)の集団的移動における力場の測定
P-24 (OP04-5)	佐藤 有紀	九州大学大学院医学研究院	脈動による空間伸縮が形態形成に果たす役割
P-25 (OP04-6)	尾之内 佐和	北海道大学獣医学研究科解剖学教室	マウス十二指腸空腸曲の屈曲機序について
P-26 (OP04-8)	矢部 泰二郎	基礎生物学研究所	ゼブラフィッシュ体節形成における分節境界形成に伴う分節時計の停止機構
P-27 (OP05-1)	高山 順	理化学研究所 生命システム研究センター	線虫 <i>C. elegans</i> において精子 TRP-3 チャンネルが受精卵のカルシウム波を引き起こす
P-28 (OP05-2)	田中 翼	熊本大学 発生医学研究所	卵黄タンパク質受容体 <i>Yolkless</i> のエンドサイトーシス制御は細胞極性と生殖質の形成に必要である
P-29 (OP05-4)	北舘 祐	基礎生物学研究所生殖細胞研究部門	精子幹細胞の数を決める仕組み
P-30 (OP05-6)	関 由行	関西学院大学	生殖細胞形成機構の動物種を超えた共通原理と種特異性
P-31 (OP06-1)	呉谷 文	Dept. of Biol. Scis., Grad. Sch. of Sci, Univ. of Tokyo	bHLH-WRPW 型転写因子 <i>Hes</i> 遺伝子ファミリーの <i>hes5</i> クラスタに注目した起源と進化
P-32 (OP06-3)	北條 宏徳	東京大学大学院工学系研究科バイオエンジニアリング専攻	ChIP-seq 解析を駆使した骨形成における転写因子 <i>Sp7/Osterix</i> の作動様式の同定と骨を有する脊椎動物進化との関連性
P-33 (OP06-4)	阿部 高也	RIKEN CLST 生体ゲノム工学研究チーム	マウス着床後初期胚における細胞系譜解析
P-34 (OP06-5)	小田(石井)いずみ	京都大学大学院 理学研究科 生物科学専攻	ホヤ胚における母性因子による胚性発生プログラムの開始機構

## その他のご案内

---

- ◆ **小ホール内での飲食は禁止**されておりますので、持ち込みは行わないようご協力をお願いいたします。  
(19日、20日に開催するプレゼンテーションセミナーの時間帯のみ飲食可能です)
- ◆ インターネット接続の用意はしておりません。必要な方は各自でご準備ください。
- ◆ 飲み物・お菓子の提供はありません。1階ロビーの自動販売機をご利用ください。(事務所前)

- ◆ 交流会のご案内

下記内容で交流会を開催いたします。

日時：10月20日(木)17:00～

場所：沼津港深海水族館ナイトミュージアム & 浜焼きしんちゃん

( <http://www.numazu-deepsea.com/>



& <http://tabelog.com/shizuoka/A2205/A220501/22021988/> )



参加費：ノンアルコールつき 5,000円 or アルコールつき 6,000円 (10/19の受付時に集金いたします)

### タイムスケジュール

- 17:00 三島市民文化会館をバスにて出発
- 18:00 沼津港深海水族館到着
- 18:10 レセプション開始
- 18:15 ナイトミュージアムガイドツアー開始
- 19:00 浜焼きしんちゃんにて交流会開始
- 21:00 バスにて三島市民文化会館へ出発

注) バスに乗り遅れた場合は、自力で沼津港深海水族館までお越しください。